



全国高校総体体育大会(インターハイ)第2日は28日、沖縄県金武町フットボールセンターなどで8競技が行われ、サッカー男子の徳島市立が3回戦でPK戦の末に大分を下し、30日の準々決勝に駒を進めた。県勢の8強入りは1992年に優勝した徳島市立以来27年ぶり。サッカー女子の鳴門渦潮も大商学園(大阪)をPK戦で破り、ベスト8に進出した。バスケットボールは男子の海部、女子の富岡東がそれぞれ勝って2回戦に進んだ。ソフトボール女子の池田辻は1回戦で帯広大谷(北海道)に五回コールド勝ちした。ソフトテニス男子の徳島科技は1回戦で地元の延岡学園(宮崎)に競り負けた。バレーボール女子は就実(岡山)が頂点に立ち、三好市山城町出身の平田美菜が主力選手として活躍した。

全国高校総体

南部九州

第2日



サッカー

(沖縄県金武町フットボールセンターほか)

【男子】3回戦

徳島市立 0-0-0 大分

【女子】1回戦

鳴門渦潮 1-0-1 大商学園

徳島 1-0-1 天竺

▽得点者 【鳴】長谷原(二ノ森)

徳島市立男子

守護神2人 鉄壁の防御

徳島市立

沖縄の青空の下で徳島市立イレブンの笑顔がはじけた。3試合連続のPK戦勝利。同校OBの河野監督が3年時に全国制覇を果たした1992年以来、27年ぶりの県勢8強入りと「フル1軍団」の勢いは止まらない。

躍進を支えているのはゴールを守る2人の守護神。PK戦で力を発揮しているのが米田だ。3試合ともPK戦が濃厚になった後半終了間際に投入され、好セーブを連発してきた。この日も幸先良く1人目を阻止。9人目のキッカーとしてゴールを決めた直後、相手10人目のシュートを左に横っ飛びして防いだ。

特にPKが得意だったわけではないが、大会直前の練習で調子が良く、起用されるようになった。「チームに貢献できているのは光栄。次も良い準備をして役割を果たしたいと喜んだ。先発した全試合で米田と交代するまでほぼ70分間ゴールを守ったのは中川。DF陣と共に無失点でいい。ここまで戦いを振り返り「安定してプレーできている。このまま失点ゼロでいきたい」と話す。

4強入りを懸け、30日に富山1と戦う。「3試合で無得点。内容で相手を圧倒できているわけではない」と浮かれた様子を見せない阿部主将は「勢いに乗り、次もしっかり戦う」と一戦必勝を誓った。(石津遼)

男子3回戦・大分対徳島市立 前半、中盤でボールを受ける徳島市立の横野(中央) 〓沖縄県金武町フットボールセンター